

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	静岡県立農林大学校
設置者名	静岡県

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
養成部	園芸学科 (野菜コース)	夜・通信	180 時間	160 時間	
	園芸学科 (花きコース)		180 時間	160 時間	
	茶業学科	夜・通信	216 時間	160 時間	
	果樹学科	夜・通信	288 時間	160 時間	
	畜産学科	夜・通信	288 時間	160 時間	
	林業学科	夜・通信	180 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="http://www6.shizuokanet.ne.jp/usr/noudai/shugakusien.htm">www6.shizuokanet.ne.jp/usr/noudai/shugakusien.htm</a>
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	静岡県立農林大学校
設置者名	静岡県

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	静岡県立農林大学校外部評価委員会
役割	<p>大学校は学校教育法第42条及び第43条に基づき、外部評価を実施する。</p> <p>大学校は、年度当初に、学校運営における重点目標、評価項目、具体的方策及び評価指標を記載した大学校評価シートを作成する。</p> <p>重点目標は、①農林業を志す意欲ある学生の確保、②先端的な農林業技術や農業ビジネスなど時代に合った実践的教育の充実、③関係機関・団体等と連携した学生への就農指導の強化、④農林業に従事する人材に対するスキルアップ支援の4つ。</p> <p>重点目標に対応する当該年度の達成目標である評価項目、方策、評価指標を設定し、年度末までに、当該年度の成果と改善すべき課題を分析し、達成状況を自己評価する。</p> <p>その結果を踏まえ、大学校外部評価運営委員会は、大学校評価を行う。</p> <p>大学校は、外部評価結果について、学校運営の改善に活かすほか、次年度以降の重点目標や評価項目等に反映させる。</p>

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
大学教授 民間企業経営者 教育関係者 農業高校校長	1年以内	【学識経験者】 左記「前職又は現職」から4名選任
農業経営士協会会長 農業法人協会会長 指導林家・青年林業士	1年以内	【農林業関係者】 左記「前職又は現職」から3名選任
(備考) 2020年4月1日までに審議事項を規定上に定める。		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	静岡県立農林大学校
設置者名	静岡県

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1月 各教科担当に作成指示(2月末締切り)</li> <li>・ 3月 確認及び修正</li> <li>・ 7月 学校ホームページにて公表</li> </ul> <p>※2020年度については3月に公表予定</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="http://www6.shizuokanet.ne.jp/usr/noudai/shugakusien.htm">www6.shizuokanet.ne.jp/usr/noudai/shugakusien.htm</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各科目担当者は、成績の審査について、授業科目ごとに定める評価基準に基づき、定期又は随時に行う試験、レポートのほか、出席状況及び授業中の態度等を考慮して、総合的に行う。</p> <p>成績は、100点満点を基準とし、評価点数により①優(80点以上)、②良(65-80点)、③可(50-65点)、④不可(50点未満)として、成績を決定する。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>各学生の成績については、各学期末において開催する成績会議(全教員参加)の議を経て、認定する。</p> <p>各学期、学年における成績分布状況については、GPA制度を利用し、優=3点、良=2点、可=1点とし、各科目に割り当てられた単位数を乗じて得た値の合計値を修得単位数で割り算出している。</p> <p>学科ごとにGPAを算出し、その数値を基に学科内順位を決定する。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	<a href="http://www6.shizuokanet.ne.jp/usr/noudai/shugakusien.htm">www6.shizuokanet.ne.jp/usr/noudai/shugakusien.htm</a>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認定方針 <ul style="list-style-type: none"> <li>農林業の構造変化や変貌する農林業情勢に対応し、静岡県農林業の特質を踏まえて、幅広い専門的な知識・技術と経営能力を有する優れた農林業後継者及び、農山村地域の振興に貢献する指導者を養成するため、次に掲げる資質・能力を身につけ、所定の単位を修得した者に専門士を授与する。</li> <li>・社会人としての豊かな教養及び産業人としての広い視野と社会変化に柔軟に対応できる能力</li> <li>・農林業従事者及び農林業指導者、技術者として共通に必要な農業及び林業の基礎的及び、専門的な知識と技術</li> </ul> </li> <li>● 取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>校長は、定められた科目を履修し、進級及び卒業に必要な単位（単位時間）数を修得した学生に対し、運営会議の議を経て認定する。</li> <li>進級に必要な単位（単位時間）数：1学年に履修すべき35単位（1260単位時間）のうち、必須科目を含む33単位（1188単位時間）以上。</li> <li>卒業に必要な単位（単位時間）数：2学年に履修すべき36単位（1296単位時間）のうち、必須科目を含む34単位（1224単位時間）以上、かつ、1学年から通算して修得した単位数の合計が、67単位（2412単位時間）以上。</li> </ul> </li> </ul>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	<a href="http://www6.shizuokanet.ne.jp/usr/noudai/shugakusien.htm">www6.shizuokanet.ne.jp/usr/noudai/shugakusien.htm</a>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	静岡県立農林大学校
設置者名	静岡県

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①-1 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業関係		養成部	園芸学科(野菜コース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2412 単位時間	864 <small>単位時間</small>	360 <small>単位時間</small>	6804 <small>単位時間</small>	108 <small>単位時間</small>	36 <small>単位時間</small>
			8172 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
70人		72人	0人	8人	36人	44人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>1 学年では、生物学や英会話等の教養科目、作物や農林業経営等の共通科目、また、農薬概論、農業機械、露地野菜や施設野菜の実習、座学等の専攻科目Ⅰを通じて、社会人としての教養と、農林業の基礎学習を行う。</p> <p>2 学年では、メロン専攻、イチゴ専攻、トマト専攻、野菜一般専攻に分かれ、栽培実習、座学、大型機械、農業経営、園芸流通等の専攻科目Ⅱや、先進経営体での、2ヶ月間の先進経営研修、卒業論文を通じて、専門的な学習を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>各科目担当者は、成績の審査について、授業科目ごとに定める評価基準に基づき、定期又は随時に行う試験、レポートのほか、出席状況及び授業中の態度等を考慮して、総合的に行う。</p> <p>成績は、100点満点を基準とし、評価点数により①優(80点以上)、②良(65-80点)、③可(50-65点)、④不可(50点未満)として、成績を決定する。</p> <p>各学生の成績については、各学期末において開催する成績会議(全教員参加会議)の議を経て、認定する。</p> <p>各学期、学年における成績分布状況については、GPA制度を利用し、優=3点、良=2点、可=1点とし、各科目に割り当てられた単位数を乗じて得た値の合計値を修得単位数で割り算出している。</p> <p>学科ごとにGPAを算出し、その数値を基に学科内順位を決定する。</p>

卒業・進級の認定基準
(概要) 校長は、定められた科目を履修し、進級及び卒業に必要な単位（単位時間）数を修得した学生に対し、運営会議の議を経て認定する。 進級に必要な単位（単位時間）数：1学年に履修すべき35単位（1260単位時間）のうち、必須科目を含む33単位（1188単位時間）以上。 卒業に必要な単位（単位時間）数：2学年に履修すべき36単位（1296単位時間）のうち、必須科目を含む34単位（1224単位時間）以上、かつ、1学年から通算して修得した単位数の合計が、67単位（2412単位時間）以上。
学修支援等
(概要) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学科担任制による学修全般についてのアドバイス</li> <li>・ 本校及び園芸教場の兼任教員による専門的な技術指導</li> <li>・ 学科担任及び学生課職員による進路指導及び学生生活相談</li> <li>・ 外部カウンセラーによるメンタルケア（希望者）</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
34人 (100%)	2人 (5.9%)	31人 (91.2%)	1人 (2.9%)
(主な就職、業界等) 自家就農、農業法人、農業協同組合、農業関連企業、一般企業			
(就職指導内容) インターンシップ、雇用就農等合同説明会、特別講義（履歴書の書き方、進路講話）、三者面談、面接練習、履歴書添削等の実施			
(主な学修成果（資格・検定等）) 大型特殊自動車運転免許（農耕用）、刈払機作業車安全衛生教育、日本農業技術検定、危険物取扱者、毒物劇物取扱者試験等、簿記検定			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
71人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

①-2 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業関係		養成部	園芸学科(花きコース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2412 単位時間	900 単位時間	360 単位時間	5652 単位時間	108 単位時間	36 単位時間
			7056 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	35人	0人	4人	36人	40人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>1 学年では、生物学や英会話等の教養科目、作物や農林業経営等の共通科目、また、農薬概論、農業機械、露地切花や施設栽培の実習、座学等の専攻科目Ⅰを通じて、社会人としての教養と、農林業の基礎学習を行う。</p> <p>2 学年では、切花専攻や鉢物専攻に分かれ、栽培実習、座学、大型機械、農業経営、園芸流通等の専攻科目Ⅱや、先進経営体での、2ヶ月間の先進経営研修、卒業論文を通じて、専門的な学習を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>各科目担当者は、成績の審査について、授業科目ごとに定める評価基準に基づき、定期又は随時に行う試験、レポートのほか、出席状況及び授業中の態度等を考慮して、総合的に行う。</p> <p>成績は、100点満点を基準とし、評価点数により①優(80点以上)、②良(65-80点)、③可(50-65点)、④不可(50点未満)として、成績を決定する。</p> <p>各学生の成績については、各学期末において開催する成績会議(全教員参加会議)の議を経て、認定する。</p> <p>各学期、学年における成績分布状況については、GPA制度を利用し、優=3点、良=2点、可=1点とし、各科目に割り当てられた単位数を乗じて得た値の合計値を修得単位数で割り算出している。</p> <p>学科ごとにGPAを算出し、その数値を基に学科内順位を決定する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>校長は、定められた科目を履修し、進級及び卒業に必要な単位(単位時間)数を修得した学生に対し、運営会議の議を経て認定する。</p> <p>進級に必要な単位(単位時間)数：1学年に履修すべき35単位(1260単位時間)のうち、必須科目を含む33単位(1188単位時間)以上。</p> <p>卒業に必要な単位(単位時間)数：2学年に履修すべき36単位(1296単位時間)のうち、必須科目を含む34単位(1224単位時間)以上、かつ、1学年から通算して修得した単位数の合計が、67単位(2412単位時間)以上。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学科担任制による学修全般についてのアドバイス</li> <li>・ 本校及び分校に隣接する研究所の兼任教員による専門的な技術指導</li> <li>・ 学科担任及び学生課職員による進路指導及び学生生活相談</li> <li>・ 外部カウンセラーによるメンタルケア(希望者)</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
15人 (100%)	1人 (6.7%)	14人 (93.3%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 農業法人、農業協同組合、農業関連企業、公務員、一般企業			
（就職指導内容） インターンシップ、雇用就農等合同説明会、特別講義（履歴書の書き方、進路講話）、三者面談、面接練習、履歴書添削等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 大型特殊自動車運転免許（農耕用）、刈払機作業車安全衛生教育、日本農業技術検定、危険物取扱者、毒物劇物取扱者試験等、簿記検定			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
33人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

①-3 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業関係		養成部	茶業学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2412 単位時間	1008 単位時間	324 単位時間	3096 単位時間	108 単位時間	36 単位時間
			4572 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		27人	0人	3人	20人	23人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 1 学年では、生物学や英会話等の教養科目、作物や農林業経営等の共通科目、また、農薬概論、農業機械、茶の栽培、製造等の実習、座学等の専攻科目Ⅰを通じて、社会人としての教養と、農林業の基礎学習を行う。 2 学年は、茶業分校に隣接する農林技術研究所茶業研究センターの兼任教員による指導の下、栽培、土壌肥料、病害虫、育種、茶製造、大型機械等の実習、座学の専攻科目Ⅱや、2ヶ月間の先進経営研修、卒業論文を通じて、専門的な学習を行う。
成績評価の基準・方法
(概要) 各科目担当者は、成績の審査について、授業科目ごとに定める評価基準に基づき、定期又は随時に行う試験、レポートのほか、出席状況及び授業中の態度等を考慮して、総合的に行う。 成績は、100点満点を基準とし、評価点数により①優(80点以上)、②良(65-80点)、③可(50-65点)、④不可(50点未満)として、成績を決定する。 各学生の成績については、各学期末において開催する成績会議(全教員参加会議)の議を経て、認定する。 各学期、学年における成績分布状況については、GPA制度を利用し、優=3点、良=2点、可=1点とし、各科目に割り当てられた単位数を乗じて得た値の合計値を修得単位数で割り算出している。 学科ごとにGPAを算出し、その数値を基に学科内順位を決定する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 校長は、定められた科目を履修し、進級及び卒業に必要な単位(単位時間)数を修得した学生に対し、運営会議の議を経て認定する。 進級に必要な単位(単位時間)数：1学年に履修すべき35単位(1260単位時間)のうち、必須科目を含む33単位(1188単位時間)以上。 卒業に必要な単位(単位時間)数：2学年に履修すべき36単位(1296単位時間)のうち、必須科目を含む34単位(1224単位時間)以上、かつ、1学年から通算して修得した単位数の合計が、67単位(2412単位時間)以上。
学修支援等
(概要) ・ 学科担任制による学修全般についてのアドバイス ・ 本校及び分校に隣接する研究所の兼任教員による専門的な技術指導 ・ 学科担任及び学生課職員による進路指導及び学生生活相談 ・ 外部カウンセラーによるメンタルケア(希望者)

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
10人 (100%)	3人 (30.0%)	7人 (70.0%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 自家就農、農業法人、農業関連企業、一般企業			
（就職指導内容） インターンシップ、雇用就農等合同説明会、特別講義（履歴書の書き方、進路講話）、三者面談、面接練習、履歴書添削等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 大型特殊自動車運転免許（農耕用）、刈払機作業車安全衛生教育、日本農業技術検定、危険物取扱者、毒物劇物取扱者試験等、茶手揉教師補、日本茶アドバイザー、簿記検定			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
25人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

①-4 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業関係		養成部	果樹学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2412 単位時間	972 単位時間	360 単位時間	3276 単位時間	108 単位時間	36 単位時間
			4752 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20人	19人	0人	3人	18人	21人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>1 学年では、生物学や英会話等の教養科目、作物や農林業経営等の共通科目、また、農業概論、農業機械、果樹の栽培、製造等の実習、座学等の専攻科目Ⅰを通じて、社会人としての教養と、農林業の基礎学習を行う。</p> <p>2 学年は、果樹分校に隣接する農林技術研究所果樹研究センターの兼任教員による指導の下、果樹栽培、土壌肥料、病害虫、育種、大型機械等の実習、座学の専攻科目Ⅱや、2ヶ月間の先進経営研修、卒業論文を通じて、専門的な学習を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>各科目担当者は、成績の審査について、授業科目ごとに定める評価基準に基づき、定期又は随時に行う試験、レポートのほか、出席状況及び授業中の態度等を考慮して、総合的に行う。</p> <p>成績は、100点満点を基準とし、評価点数により①優(80点以上)、②良(65-80点)、③可(50-65点)、④不可(50点未満)として、成績を決定する。</p> <p>各学生の成績については、各学期末において開催する成績会議(全教員参加会議)の議を経て、認定する。</p> <p>各学期、学年における成績分布状況については、GPA制度を利用し、優=3点、良=2点、可=1点とし、各科目に割り当てられた単位数を乗じて得た値の合計値を修得単位数で割り算出している。</p> <p>学科ごとにGPAを算出し、その数値を基に学科内順位を決定する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>校長は、定められた科目を履修し、進級及び卒業に必要な単位(単位時間)数を修得した学生に対し、運営会議の議を経て認定する。</p> <p>進級に必要な単位(単位時間)数：1学年に履修すべき35単位(1260単位時間)のうち、必須科目を含む33単位(1188単位時間)以上。</p> <p>卒業に必要な単位(単位時間)数：2学年に履修すべき36単位(1296単位時間)のうち、必須科目を含む34単位(1224単位時間)以上、かつ、1学年から通算して修得した単位数の合計が、67単位(2412単位時間)以上。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学科担任制による学修全般についてのアドバイス</li> <li>・ 本校及び分校に隣接する研究所の兼任教員による専門的な技術指導</li> <li>・ 学科担任及び学生課職員による進路指導及び学生生活相談</li> <li>・ 外部カウンセラーによるメンタルケア(希望者)</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
10人 (100%)	0人 (0%)	9人 (90.0%)	1人 (10%)
（主な就職、業界等） 農業法人、農業協同組合、農業関連企業、一般企業			
（就職指導内容） インターンシップ、雇用就農等合同説明会、特別講義（履歴書の書き方、進路講話）、三者面談、面接練習、履歴書添削等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 大型特殊自動車運転免許（農耕用）、刈払機作業車安全衛生教育、日本農業技術検定、危険物取扱者、毒物劇物取扱者試験等、簿記検定			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
21人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

①-5 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業関係		養成部	畜産学科（大家畜コース）	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2412 単位時間	954 単位時間	252 単位時間	1818 単位時間	0 単位時間	36 単位時間
			3060 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20人	23人	0人	3人	17人	20人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>1 学年では、生物学や英会話等の教養科目、作物や農林業経営等の共通科目を学ぶ。また、専攻科目Ⅰについては、畜産に関する基本的な知識を習得し、さらに、県内の先進的な畜産農家のほか、関係する機関（乳業メーカー、食品加工施設、家畜市場等）の見学を通年で行う。</p> <p>2 学年では、畜産分校に隣接する畜産技術研究所の兼任教員による指導の下、乳牛や肉牛の飼養管理や繁殖、大型機械等の実習、座学の専攻科目Ⅱや、2ヶ月間の先進経営研修、卒業論文を通じて、専門的な学習を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>各科目担当者は、成績の審査について、授業科目ごとに定める評価基準に基づき、定期又は随時に行う試験、レポートのほか、出席状況及び授業中の態度等を考慮して、総合的に行う。</p> <p>成績は、100点満点を基準とし、評価点数により①優(80点以上)、②良(65-80点)、③可(50-65点)、④不可(50点未満)として、成績を決定する。</p> <p>各学生の成績については、各学期末において開催する成績会議(全教員参加会議)の議を経て、認定する。</p> <p>各学期、学年における成績分布状況については、GPA制度を利用し、優=3点、良=2点、可=1点とし、各科目に割り当てられた単位数を乗じて得た値の合計値を修得単位数で割り算出している。</p> <p>学科ごとにGPAを算出し、その数値を基に学科内順位を決定する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>校長は、定められた科目を履修し、進級及び卒業に必要な単位（単位時間）数を修得した学生に対し、運営会議の議を経て認定する。</p> <p>進級に必要な単位（単位時間）数：1学年に履修すべき35単位（1260単位時間）のうち、必須科目を含む33単位（1188単位時間）以上。</p> <p>卒業に必要な単位（単位時間）数：2学年に履修すべき36単位（1296単位時間）のうち、必須科目を含む34単位（1224単位時間）以上、かつ、1学年から通算して修得した単位数の合計が、67単位（2412単位時間）以上。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学科担任制による学修全般についてのアドバイス</li> <li>・ 本校及び分校に隣接する研究所の兼任教員による専門的な技術指導</li> <li>・ 学科担任及び学生課職員による進路指導及び学生生活相談</li> <li>・ 外部カウンセラーによるメンタルケア（希望者）</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11人 (100%)	1人 (9.1%)	9人 (81.8%)	1人 (9.1%)
（主な就職、業界等） 自家就農、農業法人、農業団体			
（就職指導内容） インターンシップ、雇用就農等合同説明会、特別講義（履歴書の書き方、進路講話）、三者面談、面接練習、履歴書添削等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 大型特殊自動車運転免許（農耕用）、刈払機作業車安全衛生教育、危険物取扱者、毒物劇物取扱者試験等、大型特殊自動車けん引免許（農耕用）、家畜人工授精師免許、フォークリフト運転技能講習、簿記検定			
（備考）（任意記載事項） 2学年では、酪農、肉牛を専攻する大家畜コースと、養豚・養鶏を専攻する中小家畜コースに分かれ学習するため、2学年から分校及び教育課程が異なる。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1年生13人、2年生（大家畜コース）7人（計20人） ※2年次にコース選択があり。	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

①-6 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業関係		養成部	畜産学科（中小家畜コース）	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2412 単位時間	1134 <small>単位時間</small>	252 <small>単位時間</small>	2034 <small>単位時間</small>	0 <small>単位時間</small>	36 <small>単位時間</small>
			3456 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20人	23人	0人	3人	14人	17人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>1 学年では、生物学や英会話等の教養科目、作物や農林業経営等の共通科目を学ぶ。また、専攻科目Ⅰについては、畜産に関する基本的な知識を習得し、さらに、県内の先進的な畜産農家のほか、関係する機関（乳業メーカー、食品加工施設、家畜市場等）の見学を通年で行う。</p> <p>2 学年では、中小家畜分校に隣接する中小家畜研究センターの兼任教員による指導の下、鶏や豚の飼養管理や繁殖、大型機械等の実習、座学の専攻科目Ⅱや、2ヶ月間の先進経営研修、卒業論文を通じて、専門的な学習を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>各科目担当者は、成績の審査について、授業科目ごとに定める評価基準に基づき、定期又は随時に行う試験、レポートのほか、出席状況及び授業中の態度等を考慮して、総合的に行う。</p> <p>成績は、100点満点を基準とし、評価点数により①優(80点以上)、②良(65-80点)、③可(50-65点)、④不可(50点未満)として、成績を決定する。</p> <p>各学生の成績については、各学期末において開催する成績会議(全教員参加会議)の議を経て、認定する。</p> <p>各学期、学年における成績分布状況については、GPA制度を利用し、優=3点、良=2点、可=1点とし、各科目に割り当てられた単位数を乗じて得た値の合計値を修得単位数で割り算出している。</p> <p>学科ごとにGPAを算出し、その数値を基に学科内順位を決定する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>校長は、定められた科目を履修し、進級及び卒業に必要な単位（単位時間）数を修得した学生に対し、運営会議の議を経て認定する。</p> <p>進級に必要な単位（単位時間）数：1学年に履修すべき35単位（1260単位時間）のうち、必須科目を含む33単位（1188単位時間）以上。</p> <p>卒業に必要な単位（単位時間）数：2学年に履修すべき36単位（1296単位時間）のうち、必須科目を含む34単位（1224単位時間）以上、かつ、1学年から通算して修得した単位数の合計が、67単位（2412単位時間）以上。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学科担任制による学修全般についてのアドバイス</li> <li>・ 本校及び分校に隣接する研究所の兼任教員による専門的な技術指導</li> <li>・ 学科担任及び学生課職員による進路指導及び学生生活相談</li> <li>・ 外部カウンセラーによるメンタルケア（希望者）</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11人 (100%)	1人 (9.1%)	9人 (81.8%)	1人 (9.1%)
（主な就職、業界等） 自家就農、農業法人、農業団体			
（就職指導内容） インターンシップ、雇用就農等合同説明会、特別講義（履歴書の書き方、進路講話）、三者面談、面接練習、履歴書添削等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 大型特殊自動車運転免許（農耕用）、刈払機作業車安全衛生教育、危険物取扱者、毒物劇物取扱者試験等、大型特殊自動車けん引免許（農耕用）、家畜人工授精師免許、フォークリフト運転技能講習、簿記検定			
（備考）（任意記載事項） 2学年では、酪農、肉牛を専攻する大家畜コースと、養豚・養鶏を専攻する中小家畜コースに分かれ学習するため、2学年から分校及び教育課程が異なる。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者 の数	中退率
1年生13人、2年生（中小家畜コース）4人（計17人） ※2年次にコース選択があり。	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

①-7 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業関係		養成部	林業学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2412 単位時間	576 単位時間	252 単位時間	2052 単位時間	0 単位時間	36 単位時間
			2916 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		16人	0人	3人	17人	20人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 1 学年は、生物学や英会話等の教養科目、作物や農林業経営等の共通科目を学ぶ。また、専攻科目Ⅰについては、樹木や林地の測定、植林等の森林造成、シイタケ等特用林産物の栽培、林業機械の取扱い等を行う。 2 学年では、林業分校に隣接した森林林業研究センターの兼任教員による指導の下、測樹、林業機械、育林、大型機械等の実習、座学の専攻科目Ⅱや、2ヶ月間の先進経営研修、卒業論文を通じて、専門的な学習を行う。
成績評価の基準・方法
(概要) 各科目担当者は、成績の審査について、授業科目ごとに定める評価基準に基づき、定期又は随時に行う試験、レポートのほか、出席状況及び授業中の態度等を考慮して、総合的に行う。 成績は、100点満点を基準とし、評価点数により①優(80点以上)、②良(65-80点)、③可(50-65点)、④不可(50点未満)として、成績を決定する。 各学生の成績については、各学期末において開催する成績会議(全教員参加会議)の議を経て、認定する。 各学期、学年における成績分布状況については、GPA制度を利用し、優=3点、良=2点、可=1点とし、各科目に割り当てられた単位数を乗じて得た値の合計値を修得単位数で割り算出している。 学科ごとにGPAを算出し、その数値を基に学科内順位を決定する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 校長は、定められた科目を履修し、進級及び卒業に必要な単位(単位時間)数を修得した学生に対し、運営会議の議を経て認定する。 進級に必要な単位(単位時間)数：1学年に履修すべき35単位(1260単位時間)のうち、必須科目を含む33単位(1188単位時間)以上。 卒業に必要な単位(単位時間)数：2学年に履修すべき36単位(1296単位時間)のうち、必須科目を含む34単位(1224単位時間)以上、かつ、1学年から通算して修得した単位数の合計が、67単位(2412単位時間)以上。
学修支援等
(概要) ・ 学科担任制による学修全般についてのアドバイス ・ 本校及び分校に隣接する研究所の兼任教員による専門的な技術指導 ・ 学科担任及び学生課職員による進路指導及び学生生活相談 ・ 外部カウンセラーによるメンタルケア(希望者)

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
10人 (100%)	0人 (0.0%)	10人 (100.0%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 森林組合、林業関連企業、公務員			
（就職指導内容） インターンシップ、雇用就農等合同説明会、特別講義（履歴書の書き方、進路講話）、三者面談、面接練習、履歴書添削等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 大型特殊自動車運転免許（農耕用）、刈払機作業車安全衛生教育、危険物取扱者、毒物劇物取扱者試験等、伐木（大径木等）特別教育、狩猟（わな猟）免許、フォークリフト運転技能講習、簿記検定、大型特殊自動車運転免許（農耕車限定）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

## ②学校単位の情報

### a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
園芸学科	5,650 円	79,200 円	404,000 円	教材費、寮費
茶業学科				
果樹学科				
畜産学科				
林業学科			468,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

### b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="http://www6.shizuokanet.ne.jp/usr/noudai/gakkouhyouka.htm">http://www6.shizuokanet.ne.jp/usr/noudai/gakkouhyouka.htm</a>		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>大学校は学校教育法第42条及び第43条に基づき、外部評価を実施する。</p> <p>大学校は、年度当初に、学校運営における重点目標、評価項目、具体的方策及び評価指標を記載した大学校評価シートを作成する。</p> <p>重点目標は、①農林業を志す意欲ある学生の確保、②先端的な農林業技術や農業ビジネスなど時代に合った実践的教育の充実、③関係機関・団体等と連携した学生への就農指導の強化、④農林業に従事する人材に対するスキルアップ支援の4つ。</p> <p>重点目標に対応する当該年度の達成目標である評価項目、方策、評価指標を設定し、年度末までに、当該年度の成果と改善すべき課題を分析し、達成状況を自己評価する。</p> <p>その結果を踏まえ、大学校外部評価運営委員会は、大学校評価を行う。</p> <p>大学校は、外部評価結果について、学校運営の改善に活かすほか、次年度以降の重点目標や評価項目等に反映させる。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
大学教授 民間企業経営者 教育関係者 農業高校校長	1年以内	【学識経験者】 左記「前職又は現職」 から4名選任
農業経営士協会会長 農業法人協会会長 指導林家・青年林業士	1年以内	【農林業関係者】 左記「前職又は現職」 から3名選任
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="http://www6.shizuokanet.ne.jp/usr/noudai/gakkouhyouka.htm">http://www6.shizuokanet.ne.jp/usr/noudai/gakkouhyouka.htm</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

### c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="http://www6.shizuokanet.ne.jp/usr.noudai/index.htm">http://www6.shizuokanet.ne.jp/usr.noudai/index.htm</a>
--

